

## 私立高等学校への私学助成の充実を求める意見書

全国では高校生の約3割が私立高等学校で学んでおり、私立高等学校は公立高等学校と同様に公教育の場として大きな役割を果たしている。

平成22年度から私立高校生への就学支援金制度が実施され、平成26年度には制度の見直しによって加算支給額の増額及び加算支給対象世帯の拡大が行われた。これに新潟県独自の学費軽減制度が加わり、学費負担は一定程度軽減された。しかし、国・県の助成を差し引いても新潟県平均の初年度納付金負担が年額で約19万円から45万円残っている。

今年度は、就学支援金制度の見直しの年であり、学費負担の一層の軽減を図り公立高等学校との学費格差を是正していくためには、国の就学支援金制度の一層の拡充が求められる。

また、私立高等学校の経常経費への助成が不十分なため、新潟県では全教員に占める専任教員の割合は、公立高等学校の約8割に対し、私立高等学校は約6割と2割も少ないのが現状であり、専任教員の増員など教育条件の向上を図るためには、経常経費への助成の増額が不可欠である。

よって、国においては、次の事項の実現を強く求める。

### 記

- 1 私立高校生への就学支援金制度を拡充すること。
- 2 私立高等学校への経常費助成を増額すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年9月21日

新潟県佐渡市議会議員 岩崎隆寿